



熊谷市野原古墳出土

踊る埴輪

DANCING PEOPLE

「踊る埴輪」とは

「踊る埴輪」は、昭和5年(1930)に、埼玉県大里郡小原村(現熊谷市野原)地内に所在した古墳から、畑の開墾中に発見されました。その後、昭和7年(1932)に、東京帝室博物館(現東京国立博物館)が購入し、現在に至っています。

眼と口を丸く開け、一筋の粘土紐を貼り付けて鼻とし、顔を表現しています。全身は大胆な省略法で素朴に表現されており、いかにもおどけた表情は、とても親しみが感じられます。

また、左手を挙げ、いかにも踊っているように見えることから、東京帝室博物館の後藤守一^{しゅいち}氏により「踊る男女像」と名づけられた、日本の埴輪を代表する優品です。

背の高い方の埴輪は、高さ64.0cm、幅17.0cmで、顔の左右に小孔をあけて耳を表現しています。

背の低い方の埴輪は、高さ61.5cm、幅14.0cmで、頭頂部に振分け髪と、顔の左右に蝶形の「美豆良」^{みずら}を結び、腰にはひもと鎌を下げています。

なお、現在の資料名は「踊る人々」となっており、東京国立博物館のマスコットキャラクター「トーチくん」や、数々のキャラクターグッズが販売され、親しまれています。

「踊る埴輪」を出土した古墳

「踊る埴輪」は、熊谷市野原に所在した野原古墳から出土しました。

この古墳は、昭和37年(1962)に、埼玉県教育委員会により発掘調査が行われており、全長約40m、高さ約5m、後円部径約16mの前方後円墳であったと報告されています(柳田:1962)。

前方部と後円部の二か所に横穴式石室が確認されており、石室内からは、大刀・刀子・鉄鏃、墳丘からは、人物埴輪・馬形埴輪・大刀形埴輪・朝顔形円筒埴輪等が出土しており、古墳時代後期の6世紀後半から末にかけて造られた古墳であると推測されています。

また、「踊る埴輪」と一緒に出土したとされる武人埴輪は、國學院大學博物館で所蔵されています。

参考

柳田敏司 1962「おどる埴輪を出土した前方後円墳について」『埼玉研究』第6号



「踊る埴輪」(レプリカ):熊谷市立江南文化財センター



「踊る埴輪像」左:押切橋南公園 右:野原八幡神社

『踊る埴輪』豆知識



くまがや



1

「踊る埴輪」は踊っているか？

見た目の第一印象から、昭和5年(1930)、帝室博物館(現東京国立博物館)の後藤守一氏により「踊る男女像」と命名され、通称「踊る埴輪」として、数々のグッズにキャラクターとして採用されています。しかし、近年の考古学的研究では、実は踊っているのではなく、手綱を持って馬をひく「馬子」であるとの説が有力視されています。これは、腕を挙げる埴輪が、馬形埴輪と一緒に出土する事例が多いことが主な根拠となっています。

埴輪の中で最も知名度があるこの埴輪が、実は「踊る埴輪」ではなく「馬子埴輪」であったとすると、ちょっとがっかりした感じもあります。

しかし、埴輪といえば「踊る埴輪」と言えるほど知名度が高まっていると、「踊る埴輪」という名称自体が固有名詞化していると判断され、後藤守一氏が命名したところの「踊る埴輪」とすれば、万が一踊っていないとしても問題ないのではと思います。

そもそも古墳時代には、馬子という専門職は無く、農民が馬を曳いているのであり、極言すれば、考古学的には「馬子埴輪」であったとしても、馬子が踊りながら馬を曳いているとしても良いのではないのでしょうか。

2

「踊る埴輪」は男性？女性？

背の低い方の埴輪の頭頂部には、左右に振り分けた髪の表現があり、顔の両脇には蝶形の突起が付けられています。これは、当時の男性の髪形である「美豆良」を表現したものと考えられています。

一方、背の高い方の埴輪には、頭頂部に髪の表現は無く、顔の両脇には小穴があけられており、耳穴を表現したものと考えられています。

したがって、背の低い方の埴輪は男性、背の高い方の埴輪は性別不明ですが、男性特有の髪を結う表現がないことから、女性ではないかとも推測されています。

3

「美豆良」とは？

「美豆良」は、当時の男性の髪形の一つです。髪を頭の中央から左右に振分け、両耳のあたりで、先端を輪にしてひもで結んだものです(右絵)。ちなみに、美豆良には、この踊る埴輪のように、耳のあたりに小さくまとめた「上げ美豆良」と、結んだ下端が肩までたれた「下げ美豆良」があります。

古墳時代後期(6~7世紀)頃までは成年男子の髪形でしたが、しだいに成人はこの髪形を結わなくなり、平安時代以降は主に少年の髪形となりました。



4

「踊る埴輪」の身分は？

背の低い方の埴輪は、左腰にひもを下げ、後腰には鎌(左写真)を差しています。背の高い方の埴輪は、残念ながら腰から下は残存していませんが、何を下げていたかは不明です。

農作業で使うひもや鎌を腰に下げていること、武具や装身具を身に付けていないことから、両者とも農民と考えられています。なお、馬子とすれば、鎌は、馬の飼料を刈る、または馬の蹄を削るためのものと思われます。



5

「踊る埴輪」はどこでつくられた？

「踊る埴輪」が出土した野原古墳から、北西に約4kmの千代地内に、埴輪を焼いた窯跡が2箇所発見されています(右写真)。ここでは、荒川を臨む江南台地北縁の崖線を利用して登り窯をつくり、関東ローム層下の白色粘土を採掘して埴輪を焼いたと推測されています。



編集・発行 熊谷市教育委員会社会教育課(熊谷市立江南文化財センター)

〒360-0107 埼玉県熊谷市千代329番地

Tel: 048-536-5062 Fax: 048-536-4575 Mail: c-bunkazai@city.kumagaya.lg.jp

このリーフレットは、1,000部作成し、1部当たりの単価は約39円です。



熊谷デジタルミュージアム